

ハイデガー

2018 年追試

問 7 ハイデガーの思想についての説明として最も適当なものを，次の①～④のうちから一つ選べ。

35

- ① 西洋文明は，存在するものを科学的に対象化したり技術的に支配したりすることに没頭し，あらゆる存在するものの根源にある存在を忘れ去ってしまうという，存在忘却に陥っている。
- ② 文明の進歩を約束すると思われていた理性は，外的自然のみならず人間の感情などの内的自然をも支配するものであり，人間の目的達成の道具にすぎないため，今や新たな野蛮を生み出している。
- ③ 従来の西洋哲学は，すべての存在するものを自己に同化しようとする全体性の立場に固執しており，それゆえ自己の理解を超え出ていく他者の他者性を抹殺している。
- ④ 西洋社会の人々よりも知的に劣っていると思われていた未開社会の人々の思考には，文明社会の科学的思考に劣らず，構造的な規則が含まれており，西洋文明だけを特権視することはできない。

問題番号	設問	解答番号	正解	配点
第 4 問	問 7	35	①	3

問 8 次のア～ウのうち、ハイデガーの思想についての説明として正しいものはどれか。その組合せとして最も適当なものを、下の①～⑦のうちから一つ選べ。

36

ア 人間は、存在するとはそもそもいかなることかを問うことのできる、唯一の存在者である。私たちのそうしたありようは、現存在(ダーザイン)と呼ばれる。

イ 人間は、それ自体で存在する事物(即自存在)とは異なって、未来に向けて投企しつつ、自己を意識する。私たちのそうしたありようは、対自存在と呼ばれる。

ウ 人間は、世界のなかに投げ出されており(被投性)、そこで様々な事物や他者と関わりながら日常を生きる。私たちのそうしたありようは、世界内存在と呼ばれる。

① ア

② イ

③ ウ

④ アとイ

⑤ アとウ

⑥ イとウ

⑦ アとイとウ

問題番号	設問	解答番号	正解	配点
第 4 問	問 8	36	⑤	3

2013 年本試

問 7 次の文章は、大衆社会と科学技術を批判したハイデッガーの思想について説明したものである。□ a □ ～ □ b □ に入れる語句の組合せとして正しいものを、下の①～⑥のうちから一つ選べ。 □ 36 □

ハイデッガーは、人々がうわさ話に夢中になり、新奇なものを求め、なんとなく曖昧あいまいに生きている日常的なあり方を□ a □ と呼んだ。こうしたあり方から本来の自己へと至るには、□ b □ のただなかで、自己の死の可能性を直視することが必要だとした。後に彼は、科学技術のあり方を考察し、そこでは人間も含めてあらゆるものが利用されるべき材料とみなされていることを批判した。彼はこうした状態を□ c □ の喪失と呼び、そこから脱却する道を模索した。

- ① a ルサンチマン b 絶 望 c 故 郷
- ② a ダス・マン b 不 安 c 人 倫
- ③ a ルサンチマン b 不 安 c 故 郷
- ④ a ダス・マン b 絶 望 c 人 倫
- ⑤ a ルサンチマン b 絶 望 c 人 倫
- ⑥ a ダス・マン b 不 安 c 故 郷

問題番号	設問	解答番号	正解	配点
第 4 問	問 7	36	⑥	3

2012 年本試

問 6 ハイデッガーの思想の記述として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

27

- ① 人間は、誰^{だれ}もが自分の死を引き受けねばならず、死の自覚を介して、はじめて本来的な自己の在り方を獲得することができる。
- ② 人間は、生存への非合理的な意志のために、不断の欲求に駆り立てられ苦の世界に生きるが、意志の否定によって苦から脱却する可能性をもつ。
- ③ 人間は、単独者として神の前に立つことによって、神への信仰へと飛躍し、真の自己を回復することができる。
- ④ 人間は、不断に自己自身を超克しようとする意志によって、新たな価値を創造し、ニヒリズムを克服することができる。

問題番号	設問	解答番号	正解	配点
第 4 問	問 6	27	①	3

2008 年本試

問 7 「内なる声」は、「良心」と言い換えることもできる。良心についてのハイデッガーの見解として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

29

- ① 良心とは、他者に対する思いやりと倫理的な道理や義務とを具えた人間本来の心である。
- ② 良心とは、日常生活に埋没した画一的な自己を本来的な自己へと呼びさます、現存在の呼び声である。
- ③ 良心とは、「してはいけない」という守護神からの呼びかけで、悪を禁止する警告である。
- ④ 良心とは、社会的権威を内面化したもので、自我を監視し、欲望や衝動を抑制する超自我である。

問題番号	設問	解答番号	正解	配点
第 4 問	問 7	29	②	2

2007 年追試

問 3 多くの人がしていることに影響されて自分も「面白い」と思い、それを実際に「してみよう」と思うこともある。こうした人間のあり方についてのハイデッガーの考え方を示す文として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

23

- ① 人間の本来性から離れて、死への存在であることから目をそらし日常を生きる世人のあり方。
- ② 自分に引きこもらず積極的に社会に関わっていこうとする、本質に先立つ実存のあり方。
- ③ 自らを孤独や不安に陥れる自由から逃げ出し、集団や権威に追随していく大衆のあり方。
- ④ 新たな享楽を不断に求めて感覚的に生きることで、自己を見失ってしまった美的実存のあり方。

問題番号	設問	解答番号	正解	配点
第 4 問	問 3	23	①	3

2006 年本試

問 7 西洋現代の思想家ハイデッガーの見解として最も適当なものを，次の①～④のうちから一つ選べ。

29

- ① 厳密な推論を機械的に遂行する「幾何学的精神」だけではなく，人生にとっては，より柔軟で細やかな「繊細の精神」もまた重要である。
- ② 人間は技術によって，自然を利用する仕組みに取り込まれてしまっているが，根源としての存在の呼びかけに従わねばならない。
- ③ 言語やその他の記号による認識は，生の純粋な持続を空間化してしまうので，実在はむしろ直観によって捉えられねばならない。
- ④ 自然界には自然法則が成立するが，神や自由や不滅の魂といった事柄については，道徳法則に基づいて考えねばならない。

問題番号	設問	解答番号	正解	配点
第 4 問	問 7	29	②	3

2004 年追試

問 4 ハイデガーの捉えた人間の本来的な在り方についての記述として最も適当なものを，次の①～④のうちから一つ選べ。

33

- ① 人間とは，無制限に世界に開かれて行動することのできるものであり，人間になるとは，精神の力によって世界に開かれた人格になることである。
- ② 持続する生物的生命は，人間においては自由な内的生命として現れ，その意志によって推し進められる人類は絶えず創造へと向かう。
- ③ 人間は，自己の極限の可能性である死へと先駆することで，自らのかかわる身の周りの世界に没入した状態から，自らに最も固有な自己に ^{かくせい} 覚醒する。
- ④ 事物の本質があらかじめ与えられているのに対して，人間はまず先に実存し，世界の内で自由に自分自身の在り方を選択する存在である。

問題番号	設問	解答番号	正解	配点
第 4 問	問 4	33	③	3

2002 年追試

問 7 現代の思想家たちも良心について考察している。そのうち、ハイデガーの考えとして最も適当なものを、次の①～⑥のうちから一つ選べ。 18

- ① 良心は、人間が死、苦、争い、罪といった状況から逃避し、自己を喪失するのを妨げる。人間は良心を介して超越者を感じずるが、良心は超越者の声ではなく、自己自身の声である。
- ② 普通の人々の良心は、残酷さという本能が自己自身に向けられたものであり、一つの病理である。それに対して、真の良心は、自己に誠実であること、自己を肯定することを要請する。
- ③ 良心はきわめて複雑な感情である。それは、共感などの社会的本能に由来し、他人の称賛によって導かれ、理性、利己心、宗教的感情に支配され、教育や習慣を通じて強化される。
- ④ 良心の呼び声は本来的な自己の声である。死への不安から逃れ、日常の世界に埋没し、平均的で画一的な存在になった人間に対して、良心は本来的な自己というものに気づかせる。
- ⑤ 良心の呵責とは義務に反したときに感ずる苦痛である。人間は、刑罰のような外的な制裁によってだけでなく、良心の呵責という内的な制裁によっても、自己を規制するようになる。
- ⑥ 良心は、両親、教育者、社会的な環境の影響によって形成されるものである。それは、自己を監視する法廷、自我の検閲者として機能し、欲望や衝動を禁止したり抑制したりする。

問題番号	設問	解答番号	正解	配点
第 2 問	問 7	18	④	2